

提出日： 2012年 10月 5日

東京大学大学院人文社会系研究科  
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣  
帰国報告  
【TÖMER Kızılay Şubesi / トルコ語教育センター】

青山 和輝  
文学部言語学研究室 学部3年  
派遣形態：推奨プログラム

研究課題

トルコ語のストレス規則の再考

研修の概要

1. 基本情報

トルコ・アンカラ

TÖMER Kızılay Şubesi / トルコ語教育センター クズライ校

2. 派遣期間

2012/7/29 ~ 2011/9/1 の 35 日間

3. 研究成果

当初の計画の概要

トルコ語の学習を進めるにあたり、言語学という観点からの資料を探していたのだが、現在までトルコ語の音韻／音声に関する研究は乏しく、日本で得られる情報となるとその量はさらに限られている。そこで本派遣プログラムにより、現地でトルコ語学に関する資料を収集するとともに、アンカラ市内で実際に簡単なフィールドワークを行いたい。今回はとくにストレス規則をテーマに据えた。もちろん、トルコ語の実践的能力も底上げできるように努める所存である。

## 実際に達成された結果

手始めにアンカラ・国民図書館(Milli Kütüphane)の利用者資格を取り、トルコ語学、とくに音韻論に関する文献を収集した。しかし断食明けの休暇との兼ね合いで、TÖMERでの授業が勝手に当初の予定より1時間延長されてしまったこと、また閲覧申請時間が夕方方の早い時間に終わってしまうこともあり、図書館での作業は捗らなかった。ともかく音韻論に関しては、入手した一篇の博士論文とクズライの市街で購入したトルコ語学の一般的な大学教科書を比較して、トルコにおける一般的な音韻解釈と先進的な研究成果を理解することに努めた。それを踏まえてトルコ人数人に簡単なインタビューを行い、実際の音声実現の様子を観察するとともに、言語学の素養のない層にどれほどの知識が浸透しているのかを体感した。またホームステイ先の方の協力を得て小学1年生用の国語問題集を入手し、実際に解いてみたのだが、日本語とトルコ語の表記法の違いに由来する教育法の違いなど気づくことが多くて、なんとも面白い。息抜きとしても充分であった。

なお国民図書館では統語論に関する書籍も入手したが、これに関してはまだ手を付けていない。

## 今後の研究展望

今回は、主に資料を国民図書館と一般書店に頼ったが、これだけでは深みがなかったり、指針が定まらなかつたりと、単なる調べ学習に終始してしまう。幅広く学ぶことは悪い事ではないが、現地の研究機関(大学)や、専門家を訪ねることも大切だろう。そのために必要なトルコ語の運用能力は、最低限身に付けたつもりである。

また、先ほど少し触れた統語論に関する書籍、これはトルコ語において「語順」が果たす役割を解説したものだが、これも早いうちに読み始めようと思う。

以上。